



愛隣幼稚園.....

園だより

.....20.10月

たかが虫捕り？じゃない

9月に始まった幼稚園。毎日、どのクラスの子どもたちも登園して、クラスのみんなでお弁当を食べ、その後めいっぱい遊んで2時降園。ランチデーも2回目は今年度初めて全員がホールに集まってお昼ご飯をいただきました。9月からは飛沫が飛ばないように、パーティションを設置しました。ところがそのパーティションのためにおしゃべりの声が聴きとりにくく、お弁当の時間のそれはそれは賑やかなこと。これでは意味がないと思いますが、子どもたちに「お話ししないでご飯食べようね。」とは言えない園長です。食事を共にしながらのおしゃべりは楽しいものです。美味しいものを食べている時は、不思議と自然にリラックスした気持ちになります。それでおしゃべりしながら仲良くなったりします。親しくなりたいと大人だって会食という機会をもつくらいですから。パーティションのあるお弁当やランチデーは不自然ですが、みんなで食事を共にすることができるようになって、子どもたちの距離が近くなっていくのは本当に嬉しいことです。

さて、長くなった園での時間。子どもたちにはやりたいことがたくさんあるようです。たんぼぼ組の仁美先生は「“また、明日続きをしようね。”じゃなくて、“お弁当食べたら、また続きができるよ。”になった。」と言っていました。当たり前ですが、もっとあそびたい！と思っている子どもたちにはこれは大きなことです。先生たちは大忙しで走り回っていますが、子どもたちがその日1日満足して降園できることも嬉しいことです。そんな中に、虫捕りに夢中になる子どもたちも現れました。夏休みになる前からポテトのお母さんたちにもお願いして、畑以外の園庭の雑草（一部増えて欲しくないものを除き）は抜かずに育てていました。生き物がいる園庭にしたいと考えての事です。計画通り、夏期保育の頃には朝まだ陽射しの柔らかい時間に、大小たくさんバッタが飛び姿を確認。カナヘビにも数回出会っていました。でもこの頃はすぐに猛烈な暑さになってしまうのでバッタも避難。子どもたちで園庭が賑わう頃には、バッタたちは姿を隠していました。幼稚園が始まってすぐ、あまり日の照らない日がありました。草むらには子どもたちの姿。片づけの頃には昆虫飼育ケースにたくさんバッタが捕らえられていました。（ちょっと気持ちが悪いくらい・・・）色々な種類、大きさのバッタがいたので「これはなんてなまえ？」自然に子どもたちの興味が湧いてきます。そんな中に気が付けば進藤先生も巻き込まれて図鑑で、パソコンで調べ始めます。こんなにたくさんバッタ、このままにするのか？このままなら飼うのか？飼うならどうするのか？飼えるのか？・・・やはり元の棲み処に返すのか？主だったメンバーがてんとうむし組の子どもたちだったので、活動は一気に加速し広がっていきます。捕まえて集めて終わり（日当たりのいい場所に放置された飼育ケースの中で、虫たちはかわいそうな最期になる、という結末。）にならない。名前を知りたいと思い、飼ってみたいと思う。そう思いながら、バッタにも“命”のあることを知っているで考える。死なせてはかわいそうだと思い至る。たんぼぼ組の頃は虫を捕まえても、放っておけば大抵かわいそうな結末になります。ついこの間も未就園の子のお母さんが、「虫を捕まえても、どうしても潰して死なせてしまって・・・。」と呟いていました。さて、どうしましょう？たんぼぼ組やそれより小さい子どもたちには、虫捕りは難しい、命を大切に出来ない、と考えてやめさせた方がいいのでしょうか。もうだいぶ前のことになりますが「虫捕る子だけが生き残る」という本を貸していただきました。虫を捕まえるのは難しい。そっと掴まなければ潰してしまう。優しくぎては逃げてしまう。あの虫を捕まえたいと探しても見つからないことがある。やっと見つけても逃げられてしまう。大切に飼っても命には限りがある。思い通りにはならない。触ったり近付いたりしては危険な虫もいる。小さい人たちに経験してほしいことが<虫捕り>には山ほどあるということなどが書かれていました。たかが虫捕り、されど虫捕りです。死なせてしまう虫たちには本当に申し訳ないと思いますが、地面に近いところで生きている子どもたちが、虫とあそび、暮らしながら教えてもらうことはいっぱいです。虫が嫌いなお母さんもちょっとだけ面白がってもらえたら、子どもの世界は豊かになりそうです。ご存知ですか？ダンゴムシは甲殻類、エビやカニの仲間です。「?!」と思ってくれたあなた、もう今日から虫捕り仲間です。（かがくのとも「ぼく、だんごむし」福音館書店 是非お子さんと一緒に!）